

 <p data-bbox="315 212 686 328">みずみどり</p>	<p data-bbox="754 173 1179 222">2001年1月15日 第22号</p> <p data-bbox="754 222 1179 260">発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p data-bbox="699 260 1234 299">年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会</p> <p data-bbox="699 299 1221 338">ホームページ http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm</p> <p data-bbox="699 338 987 367">E-mail: mizumidori@nifty.com</p> <p data-bbox="699 367 1056 396">〒173-0032 板橋区大谷口上町28-7 江戸方</p>
--	---

講演会と新年会のお知らせ

みなさま、いろいろな感慨や抱負を抱いて、新しい世紀を迎えられたことと思います。恒例の、と言っても4回目の新年会のお知らせです。都会の中の自然を守るというテーマに取り組んでいる「いたばし水と緑の会」として、新しい年の区切りを迎えて下記の企画をしました。いつも会合や活動に来られない方も、ぜひご参加下さい（会員外も歓迎）。

講師の先生は、新しい会のスタートから昨春まで赤塚の森ボランティアのリーダーとして奮闘された島井さんです。講演会の後は、講師のお話を土台にして、また日頃感じていることなどの話ができればと思います。

- 1 日時：1月21日（日）1時30分～4時30分
- 2 場所：エコポリスセンター（前野出張所）和室
（志村坂上下車徒歩15分、ときわ台駅北口下車徒歩15分、ときわ台駅北口から赤羽駅西口行きバスに乗り前野小学校下車徒歩2分）
- 3 講師：島井 誠司（大東文化大学生物生態学教室）
- 3 会費：1000円程度（新年会費）
- 4 持ち物：筆記用具、名札（あなたの名前を知らない人のために忘れずに。なくした人は当日用意します）、お箸、医者等に指示された飲み物など
- 5 その他：おてつくだい下さる方は坂本までご連絡下さい（勤）3579-2598

赤塚公園自然発見ウォーキングを終えて

自然発見ウォーキングは今年で3年目、準備したことは打ち合せ会1回、コースの観覧会（下見）3回、広報いたばしとエコポに掲載、近くにある3つの小学校にご案内送付、また看板や工作等の準備もありました。ウォーキングの内容は、①自然の紹介パネルを見ながら自然発見ウォーキングコースを歩く、②公園で不要になった竹、拾ったドングリなどで工作、③広場の生き物探し、④野外教室「赤塚公園の植物を知ろう」（講師島井さん）でした。当日、会員27人が参加して待ち受けていたのに、受付に記録されたお客さん39人。ほとんどが大人で遠くから来られた方ばかりでした。

以下に参加された会員のみなさんのご意見をまとめました。今後の活動に生かしたいと思います。



準備やコースについて



●コースが狭いので少人数に分けて私たちが案内する方法だと説明がゆきわたり、遅れて来た人にも親切に対応できるのではないのでしょうか。その場合、準備期間にもう少しゆとりを持ち、計画の検討に全員参加する。コース下見で、本番ではどんなことを説明するか、勉強させてもらえるとう有難い。メンバーの知識もつくし、本番の参加者が多い場合には、少人数毎に説明員を付けることも出来て、都合がよいのではないのでしょうか（教わっただけではなかなか身につかないが、ガイドして説明すると、よく覚えることができますよね、自分の不勉強を棚に上げておいて、すみません）。 ●時期はよい ●初めてでコースをまわる人もいるので、→や絵などが多くした方がよいのではないかと。

●主要な行事なので専任の担当者をきめる。 ●参加者の時間的制約や目的が人によって違うので、コースを複数用意し、パンフレット等で選んでスタートできるようにする（全コースをゆっくり散策する、木を見て歩く、草花を探す（スタンプラリー形式にしてもおもしろい）、木の実・

葉を材料に工作する）。 ●どういふ人たちに参加してもらいたいのか話合っではどうか ●来た人がコースの通りに歩くとは限らない（湧水マンホールには受付を通らない人が多く立ち寄っている） ●城趾広場の工作体験コーナーは山に登らなければならないため人が集まらなかった ●メンバーの役割や分担を事前に相談しておきたい ●会員も持ち場だけでなく、コースをまわり全体を見ればよかった。

PRについて

●もう少しPRが必要だと思う ●区内の小学校、中学校、高校、大学の自然サークルなどに案内を送ったらどうか ●学校のある日は避け、子供だけで参加できるようにし、各学校からも参加を呼びかけてもらい、一人でも多く自然に触れて感じてもらいたい

内容について

●学校の自然学習の補完とした昆虫採集、自然学習、公園整備等を父母と一緒に参加できる行事も企画し、学校を通じて参加してもらおう ●自然の中の活動が楽しいことを実感してもらうことが、会の理解や参加につながる ●広場では顕微鏡を置いてもらったので、虫の羽、木の種などを、見て楽しめました。 ●広場の自然観察コーナーに釣巻さんの虫の標本



を展示したら面白かったと思います。 ●手作りコーナーでは参加した人は多くはありませんでしたが、天気もよくのんびりと自然の素材を使ってのリース作りなどは皆楽しそうに見えました。 ●竹工作では短時間でできることと、つくったもので遊べるものということで竹ケン玉を作ってもらおうと材料を準備していました。午前中の参加者はほとんどなく、午後になってから親子連れの参加ができました。つくられたものはケン玉のほか、ブンブン駒、竹トンボ、小物入れ、花瓶、鉢等でした。手の込んだものは時間がなくてほとんどつくられなかった。コースを歩くのに時間がかかり、来るのが遅くなって、つくったもので一緒に



遊ぶ時間がなくて残念。材料を持ち帰った人が何人かいた。 ●ものづくりについて、子供と大人について、我々ももう少し勉強するとよいと思う。 ●竹工作ではナイフの使い方に慣れない子どもが多いので、材料をもう少し加工しておいた方が親切かと思います。たとえば、羽根は中心側に鋸齒を入れたり、軸は角を落とせばいいくらい太さの、四角い棒しておくなどです。 ●今回は、参加者に対してナイフなどがやや少なかったようです。 ●集まった人が少ないなど、寂しさはありますが、一人でも

二人でも、自然に触れて良かった、大切だと思ってもらえれば成功だと思う。

トンボ池の拡張作業の報告

猪鼻 昭二

この池をつくってもう3年近く経ち、だんだん土がたまって小さく、浅くなってきました。そこで、力仕事には好都合となった曇り空の少し寒い12月2日、10時から12時の予定通りの作業で、池の拡張と湧き水の流れ込む水路の整備を行いました。

参加者は釣巻さんをはじめ7人、軍手に長靴姿でスコップを振るい、仕上がった池を眺め、疲れを忘れました。

(1) 生物調査結果

夏に金魚やヒメダカなどが見受けられたこと、そのほかにもどんな生き物がいるかを調べる為に網で掬ってみましたところ、和金(金魚)3匹、クロスジギンヤンマのヤゴ4匹、小型のヤゴ(多分オオシオカラトンボ)1匹を捕まえ、死んだ熱帯魚(真っ赤なプラティ)が2匹いました。水は澄んでいましたが寒いので沈んだ落葉の下に隠れたためか、外からは生き物は何も見えず、メダカは捕まえられませんでした。網が壊れてしまい調査は途中で切り上げましたが、かなりのヤゴが今年も住んでいるように思われます。

(2) 池の拡張

池は約2倍くらいの面積に拡張しました。短い棒切れを30センチほどの間隔に刺し、真田さんが持ってきた石灰で工事範囲を画き、外側から掘って、最後に今までの池との境を掘りあげて、一体の池にしました。池の縁はなだらかな傾斜を付けて、水辺に自然の植生が保てるように配慮すると共に、前に生えていた野草を植えて仕上げました。

掘った土は周りの低い所に敷きならし、池の拡張した側には飛び石を配置して歩きやすくしました。また、池の乗蓮寺側などは、崩れた土を掻き揚げて整備しました。

(3) 石垣下の水路の整備

湧き水の流れ込む水路はコンクリートで造ってあるが、池側が少し高い逆勾配になっている上、多量の落ち葉が積もっていたので、掃除したり縁を土止めて池に流れやすいようにした。

コンクリートの水路は、元の方より池の入り口の方が20センチ以上もレベルが高く、途中で土にしみ込んだり外に流れてしまう水量がかなりあるようだ。折角の湧き水を有効に利用できるように水路が改良できるとよいと思う。

(4) その他

今回の工事の際に行った簡単な調査でも、金魚や寒さで死んだと思われる熱帯魚が発見されたが、飼い切れなくなったペットの魚等をビオトープに放流することが、頻繁に行なわれている。

住んでいる生物が変わっていることから、採っていく人もいるようである。立ち入り禁止にした池になったことに否定的な人もあるように聞いており、小さな金魚ぐらいは自然の小魚の一種とみて、許容すべきかも知れない。トンボなども自然界では単独で生きているものではないので、あまりに偏りすぎた保護は不自然になるとも言える。一時的なブラックバスや大きなコイや亀、それに繁殖力の旺盛なザリガニなどに限って駆除すればよいように思われるが如何なものでしょう。

それから、池の工事とは直接関係ありませんが、野鳥の水のみ台の水の流量が多いのが前から気になっています。あんなにたくさん流さなくともいいのではないのでしょうか。ポンプを代えると費用がかかるし、水量が多いのでゴミが流れてきれいに保たれるメリットはありますが、無駄をしていると見られ兼ねませんので、簡単にマンホールの中で流量を絞れるといいんですが、チェックしたいですね。

猪鼻さんの意見に対する私の意見

金魚やヒメダカ、ニシキゴイは人間が鑑賞用に改良した生き物です。ふさわしい場所は水槽であり、庭園の池ではないでしょうか。乗蓮寺下の池や、美術館前の池は確かに人間が作った池です。でも目的は失われてしまった自然を取り戻すためだったと思います。この池に金魚を放すことは雑木林のなかにアメリカハナミズキやヒマワリを植えることと同じではないでしょうか。小さい金魚といっても水草に産れたトンボの卵を草ごと食べすぐ大きくなります。まえに捕った金魚は大変太っていました。乗蓮寺下の池は餌が多いようです。こんな狭い池では金魚はブラックバス同様全て食べ尽くしてしまいます。金魚の原種、フナはこんな狭くて孤立した池では世代を繰り返して生き残ることは出来ません。魚のいない水辺はもの足りませんが、すくなくとも乗蓮寺下の池は自然状態では魚の住み着く所ではありません。皆様方の意見をお待ちしています。

釣巻岳人

赤塚公園の自然を守るおてつだい

～東京都公園協会と現場で意見交換～

赤塚公園の自然について、活動の中から出てきた「こうしたい」「こうなったらいいな」といった希望や提案、自然回復した場所の今後の維持管理方法について、現場で、直接管理者にお話する機会をつくっていただきました。

11月25日(日)美術館前に集合。会の参加者は8名、東京都公園協会から管理第一課の深水係長、廣木さん、赤塚公園管理所の市川さんと石橋さんが来て下さいました。

- ・広場につくった草原を生き物が喜ぶ状態で維持したい

私たちが欄をつくって実現した草原ビオトープですが、安全面(火災)から草刈りをどうするか、という課題があります。秋の観察会では草丈が少し違うだけで、バッタ、カマキリ、ナガコガネグモなどの昆虫がいるわいるわ!生き物にとっての草原の役割を改めて実感しました。この小さな草原は、小中学校教諭の環境教育の実習や観察会に活用され、また子供達もよく遊んでいました。だから草は踏まれてべっちゃんこ。今冬は枯れ草刈りはなし。来春以降、必要な草刈りは会でやらせてほしいと思います。利用者に理解してもらうためには草原の目的や意味をお知らせする掲示が必要だと指摘されました(今の看板はいたずらされて長持ちしないので、丈夫な看板を立てさせてほしい)。

ぼうきがつくれます。みんなで竹とんぼをつくったり、秋の自然発見ウォーキングでは「竹ケン玉」づくりコーナーも。また梅まつりや区民まつりの会場で竹の一輪挿しや、竹とんぼ用の竹セットを希望者に配布しました。

ともあれ、公園の竹林には、タケノコ用のモウソウチクより、竹細工用のマダケの方が人との関わりができて、ふさわしいのではないかとということで、竹林の一部にマダケを実験的に移植してみたい、という願いをしました。

・これからのこと

いたばし水と緑の会は、「板橋区および周辺地域に残る自然を保全し、本来の姿を回復するとともに後世に伝えていく」ことを目的としています。

自然を取り戻すには時間がかかります。自然が育つまでの時間もかかりますが、自然の排除になれてしまった人間の意識が変わるのにも時間がかかります。だから長い時間軸のなかに今の活動があると思います。

もしマダケを植えることができたとして、立派な竹林になり工作に使えるようになるには10年位かかるかもしれません。

緑の管理には、長期展望と継続が不可欠です。行政にとっても、私たち市民活動にとっても。

民有地の畑や森がなくなっていくなかで、公園が果たす緑の役割はますます重要になっていきます。公園管理の方法を工夫して、もう少し自然にすることも可能でしょう。植えたり切ったり、更新・改修される緑ばかりでなく、30年いや100年先を考えた緑、住民参加でドングリから育てていく緑、人が手を加えずに自然が育っていく場所も考えてほしい。

私たちは、与えられた範囲内で自然を取り戻す実験をやらせてもらっています。今後も、ボランティアによる楽しい自然の保全・回復活動の一步一步を積み重ねていきたいと思います。新年会や2月9日（公園協会との話し合い）で、いろんな話ができるといいですね。

徳丸が原公園でボランティアグループがお掃除・・・

高島平8丁目の有志で、定期的に徳丸が原公園の清掃をするそうです。池と池まわりについてなにか注意することがありますか、と聞かれました。「人間が捨てたゴミをとることが一番大切なので、よろしく願います。草や水草は枯れてもそのままに。また、池の周りの土手もあまり踏みつけないでね」とお願いしました。徳丸が原公園は、大西さんや森さんなど近くの会員や、高島第2小学校の村山君達など、さまざまグループに見守られています。春が楽しみです。

活動のお知らせ

●運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。

2月運営委員会 日時：2月2日(金) 18:30～20:30 エコポリスセンター

3月運営委員会 日時：3月2日(金) 18:30～20:30 エコポリスセンター

●会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく

日 時：3月15日(木) 17:30～ 場 所：エコポリスセンター

● 美術館そばの自然池調査

生物の生息環境として現状がどうなっているか、
測量・調査します

日 時：1月28日(日) 10:00～12:00

場 所：美術館前

講 師：水研クリエイティブ(株)尾坂尚之

その他：小雨でも実施します

問 合：環境保全課 3579-2598

● 美術館横自然池の改善策検討会

大増殖したザリガニ、滞りがちな湧水、2年たつた池の改善策を考えます。

日 時：2月18日(日) 10:00～12:00

場 所：美術館講義室

講 師：水研クリエイティブ(株)尾坂尚之

連絡先：環境保全課 3579-2598

● 自然回復ボランティア活動講座

「ビオトープってなに」

三國小学校にできた学校ビオトープを観察し、
身近な自然をつくる意味を考えます。

日 時：2月3日(土) 13:30～16:00

場 所：三國小学校地域活動室

(西高島平駅下車)

講 師：(財)日本生態系協会

田邊 龍太

みどりと公園課 飯塚 知子

申 込：環境保全課 3579-2598

● 冬の観察会とクリーンアップ

梅まつりにそなえて、池と周りの清掃をした後
で、冬の赤塚公園の観察をします。

日 時：2月25日(日) 10:00～12:00

場 所：美術館前

連絡先：大西 3938-3106 または

植田 3958-9209

● 梅まつり

梅まつり会場で昨年同様自然池や会の活動のPR
ができればと考えています。当日の応援、準備
の手伝いは下記へ

日 時：3月3日(土) 10:00～15:30

4日(日) 10:00～15:30

場 所：美術館前の自然池

連絡先：大西 3938-3106 または

植田 3958-9209

● 東京都公園協会との話し合い

日 時：2月9日(金) 18:30～20:00

場 所：文化会館第3会議室

テーマ：赤塚公園の将来像、公園の理とボラン

ティアでできることなど